



わかった。

流れて行ってしまえば  
どこで殺されたか  
わからないはずです。



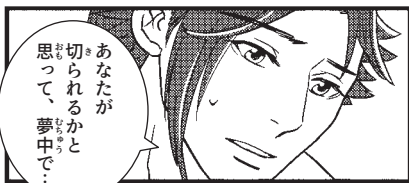
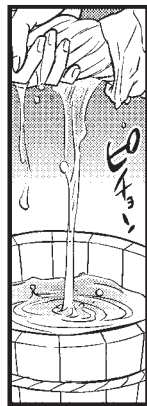
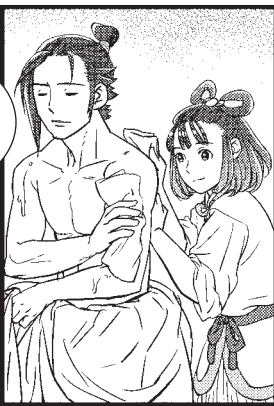
そうね、

この兵たちの  
亡骸をどこかへ  
隠さないで。

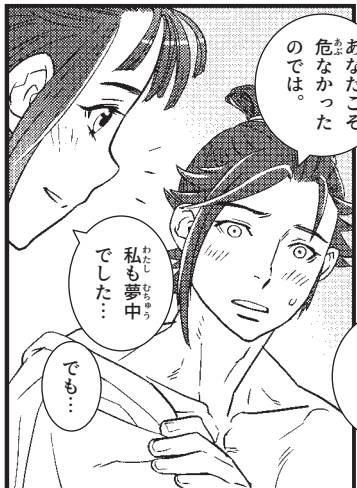
屋敷の北を流れる  
川に放り込んで  
しまいましょ。



あなたは  
初めて人を  
切ったの  
ですか？



あなたが  
切られるかと  
思っ、夢中...



あなたこそ、  
危なかった  
のでは。

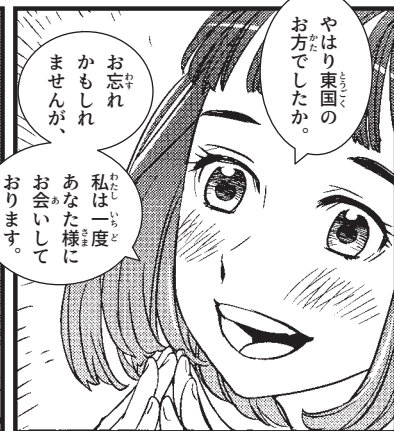
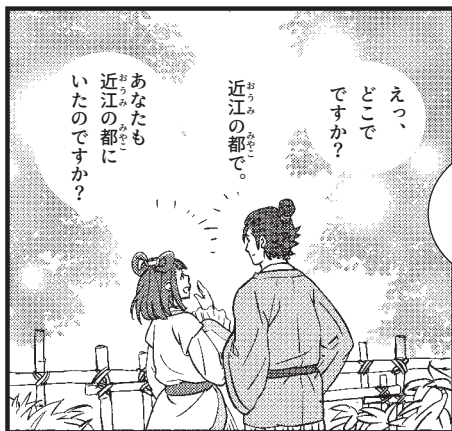
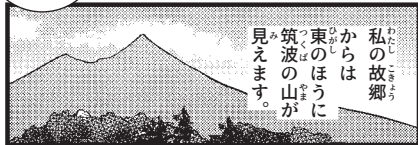
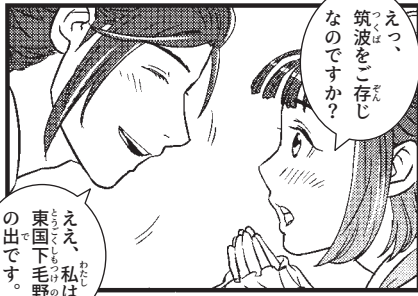
私も夢中  
でした！

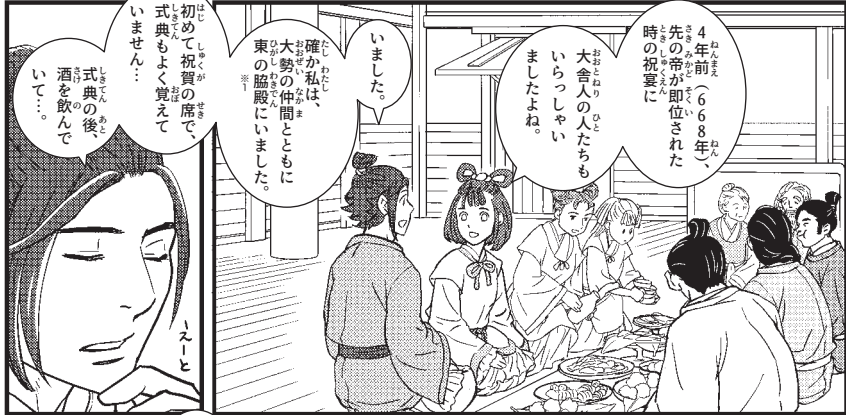
でも...



助けていただき  
ありがとう  
ございました！

ですが、  
ご無理を  
なさらずに。





4年前(668年)、  
先帝が即位された  
時の祝宴に

大舎人の人たかも  
いらつしやい  
ましたよね。

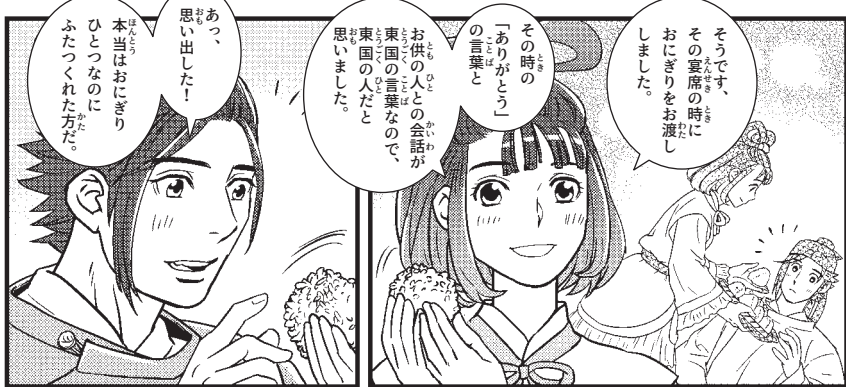
いました。

確か私は、  
大勢の仲間とともに  
東の脇殿にいました。

初めて祝賀の席で  
式典もよく覚えて  
いません！

式典のあと  
酒を飲んで  
いて…。

※1 正殿(中心となる建物)の両脇に並んだ建物



そうですね、  
その宴席の時に  
おにぎりをお渡し  
しました。

その時の  
「ありがとう」  
の言葉と

お供のひとの会話が  
東国の言葉なので、  
東国の人だと  
思いました。

あっ、  
思い出した！

本当はおにぎり  
ひとつなのに  
ふたつくれた方だ。

※2 天皇や皇后に仕えた女官



私も常陸から  
采女として近江に  
来たばかりで、

心細い時に  
東国の言葉を聞いて  
うれしかったんです。



兄が最近できた  
石岡の役所の長官を  
しています。

※3 現在の天城県石岡市にあり、後に常陸国の国府となった

祖父や父は  
常陸国造  
でした。

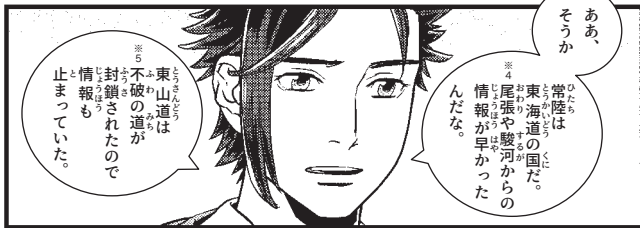
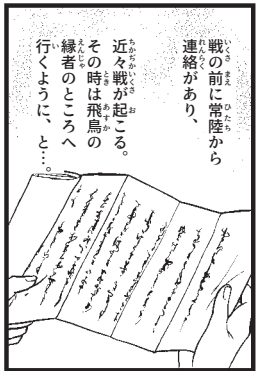
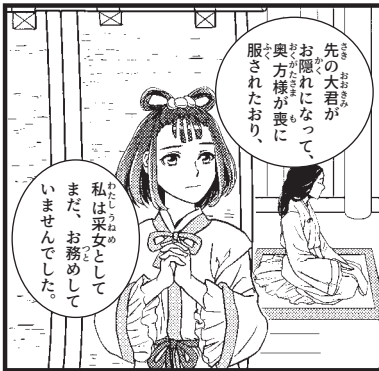
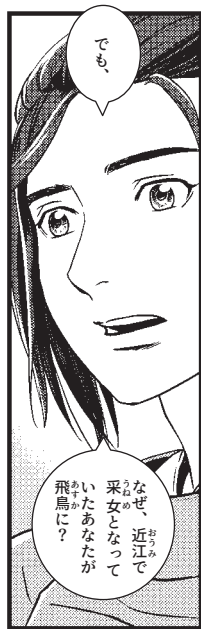


そうだったん  
ですか。

常陸じや、  
筑波の山の東  
の出身ですね。

霞のかかる  
海のそばの  
ところですか。





※4 尾張：現在の愛知県名古屋周辺、駿河：現在の静岡県東部

※5 現在の岐阜県関ヶ原町付近

※鎌足は669年に亡くなっている

古麻呂が想像したとおり、大津宮は戦のため焼失。大友に味方した大臣級の者たちも流罪や斬罪され、都から追放された。



天智帝の子の大友を支持した鎌足（不比等の父）の中臣一族はすべての要職からはずされた。その中にも不比等の一族もいた。

後の不比等による他氏族排斥と天平期の藤原一族の台頭は、

この時の出来事を忘れず、藤原一族を盤石なものとするための行動である。



古麻呂らと佐久良たちは共にこの長老の屋敷で暮らした。

この屋敷の主こそ、飛鳥で挙兵した大伴一族の長老であり、



挙兵のため屋敷からすべての兵が出払っていたところへ古麻呂たちが関わることとなったのである。



また、佐久良の一族である常陸国造家は古くから大伴一族の遠縁にあたる家柄であった。



長老の一族である大伴連御行が乱の後に長老の屋敷に立ち寄った際、古麻呂たちを見て屋敷の者から経緯を伺っていた。

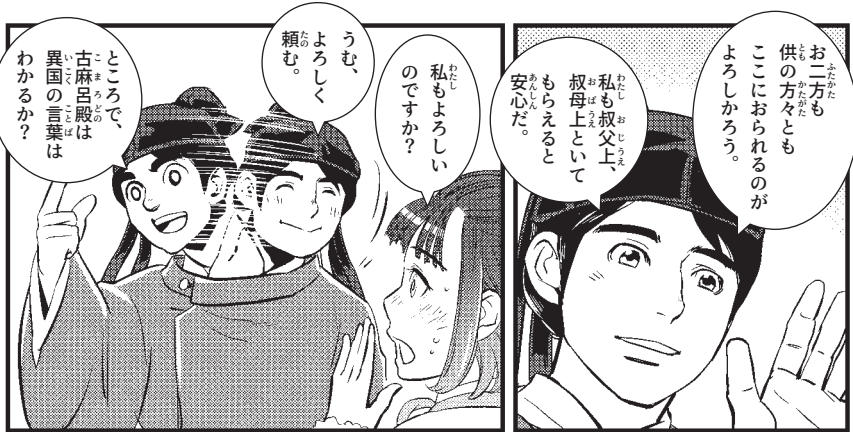
屋敷の者から聞いたぞ。

叔父上たちを助けてくれたそうなの。

礼を申し上げる。







お二方も  
供の方々とも  
ここにいらっしゃるのが  
よろしかろう。

私も叔父上、  
叔母上といひ  
もらえると  
安心だ。

私もよろしい  
のですか？

うむ、  
よろしく  
頼む。

ところで、  
古麻呂殿は  
異国の言葉は  
わかるか？



おおよその  
ことならば  
理解できます。

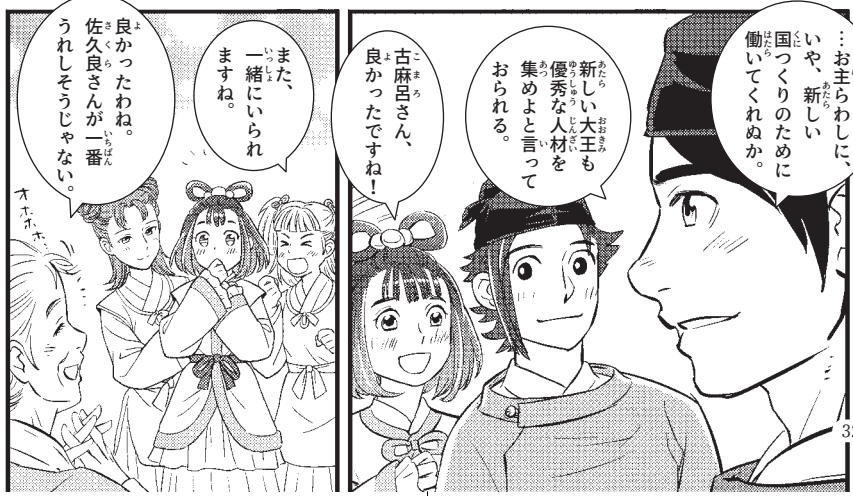
そして、供の  
文人はいくつかの  
国の言葉を読み書き  
できます。

他には、  
半島や大陸の  
様々な最新技術・  
土木技術なども  
学びました。

供の阿比登は  
陸奥の  
血筋のもので、  
蝦夷に詳しく、  
馬に乗った蝦夷の  
戦の仕方などを  
よく知っています。

それは良い！

ほう、それは  
良いことだ。



お主らわしに、  
いや、新しい  
国つくりのために  
働いてくれぬか。

新しい大王も  
優秀な人材を  
集めよと言つて  
おられる。

古麻呂さん、  
良かったですね！

また、  
一緒にいられ  
ますね。

良かったわね。  
佐久良さんが一番  
うれしそうじゃない。

オホホホ



お二方とも東国の良家の方々だ。似合いの夫婦になるだろう。



あ、そうだわ！あなたたち、一緒になったらいいんじゃない？

御行さん、あなたと言那さんが後見人になってあげればいいわよ。

おお！それは良い！

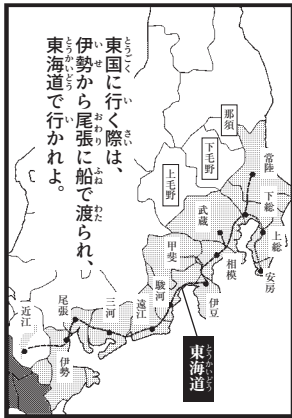


ありがとうございます！

異存なからう。忙しくなるな！

この婚礼の許しを両家にいただけよう、私から手配しよう。

これから古麻呂さんに朝廷で働いてもらうことの許しと、



東国に行く際は、伊勢から尾張に船で渡られ、東海道で行かれよ。



大王は新たに天武天皇とされるそうじゃ。

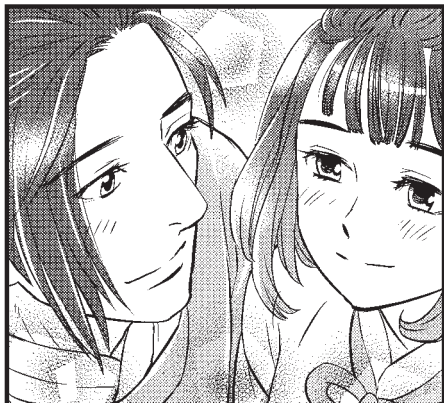
大王でなく、天皇という新たな称を用いて新たな政治を行うらしい。

そうなるぞ。忙しくなるぞ。御行も人使いが荒いからな。



近いうちに一度、二人で東国の両家に行ってくと良い。





東山道の近江や  
不破の道、美濃  
あたりには、

近江軍の残党が  
山賊まがいの  
ことをしていると  
聞き及んでいる。  
近いうちに  
討伐するがな。

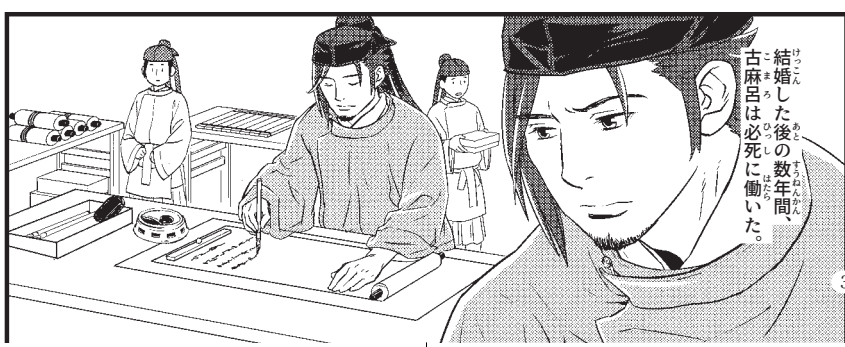


大伴の長老の屋敷を譲り受け、  
文人と阿比登も  
佐久良の供の桃音と紅と  
それぞれ一緒に、  
屋敷内の別棟で暮らした。



結婚後、  
佐久良との間に  
女の子が生まれ、

オヤアア！オヤアア！



結婚した後の数年間、  
古麻呂は必死に働いた。



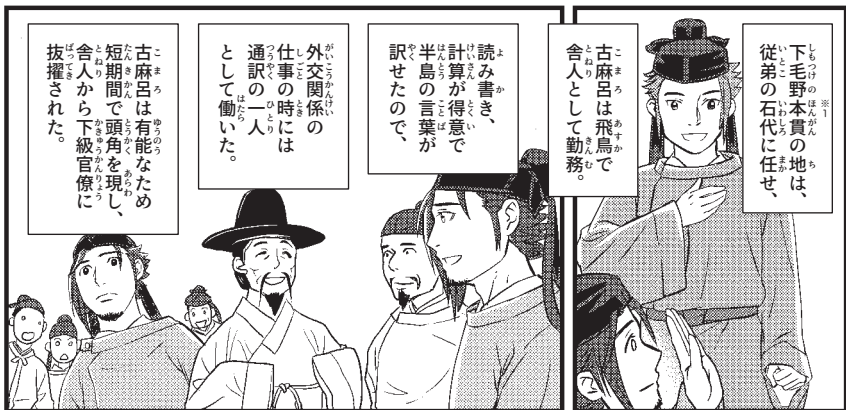
天武13 (684) 年

八色の姓の制定により、下毛野一族は朝臣の姓を受け、

名実ともに下毛野國を統括する一族になった。

この時、全国では52の氏族が朝臣の姓を受けている。ほぼ、一國で一氏族が朝臣となった。

※1 一族が生まれた場所



下毛野本貫の地は、従弟の石代に任せ、

古麻呂は飛鳥で舎人として勤務。

読み書き、計算が得意で半島の言葉が訳せたので、

外交関係の仕事の時には通訳の一人として働いた。

古麻呂は有能なため短期間で頭角を現し、舎人から下級官僚に抜擢された。



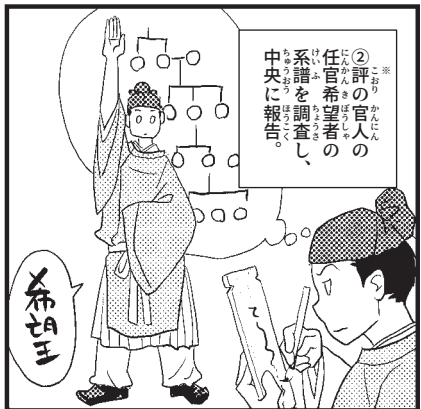
ちょうどこの頃…

大化の改新後、中央政府は新しい政策を地方に広めるため、

「辛(みことちか)」を各地に派遣した。

2 天皇の御言(みこと)の命令を受けて各地で政務を司つた官人

※ 地方の行政単位。のちに「郡」に変更



②評の官人の任官希望者の系譜を調査し、中央に報告。

希望者



宰の主な任務は、

①任地において「戸籍」をつくり、「田畑」の面積を調査する。



この作業は孝徳朝―天智朝―天武朝へと引き継がれ、

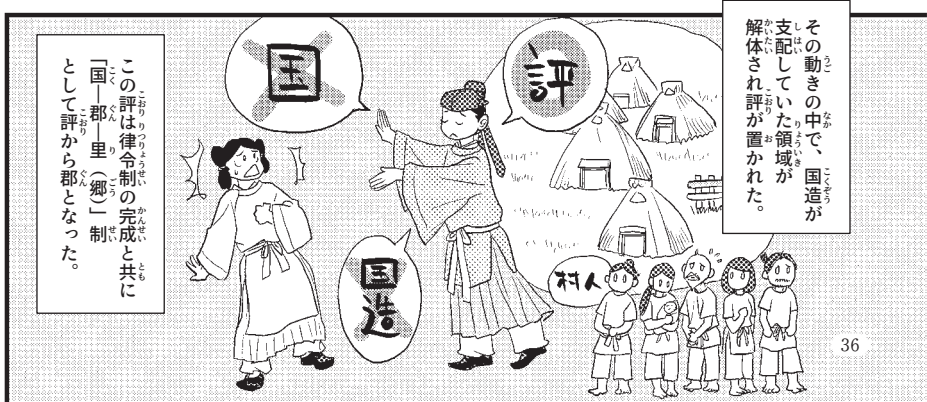
地方統治に向けた律令体制の確立が進められていった。



③旧国造などの在地首長が保有する武器を集め、武器庫を造って王権の管理下におく。

国造

1  
2  
3



その動きの中で、国造が支配していた領域が解体され評が置かれた。

この評は律令制の完成と共に「国郡里(郷)制」として評から郡となった。

国

評

国造

村人





また、その作業と共に  
この頃、全国の国境を  
決める作業（画定）が  
行われ、



政府は東国を熟知  
している古麻呂に  
東国の国境画定  
作業の案内役として  
の命を下した。



東国の国境  
画定作業に向け、  
中央から担当官や  
技術者が派遣される  
こととなった。



天武天皇9（680）年、天皇の皇后で後の  
持統天皇（この時、鸕野讃良皇女）が病になり、  
天武天皇が  
妃の病氣平癒のため  
本薬師寺（藤原京）  
建立の発願を行った。



特に下毛野と常陸、  
また上毛野や下総との境  
さらに磐城との境界  
画定についても  
古麻呂が調整役として  
旧国造や地域の首長  
との仲介役の任が  
下された。

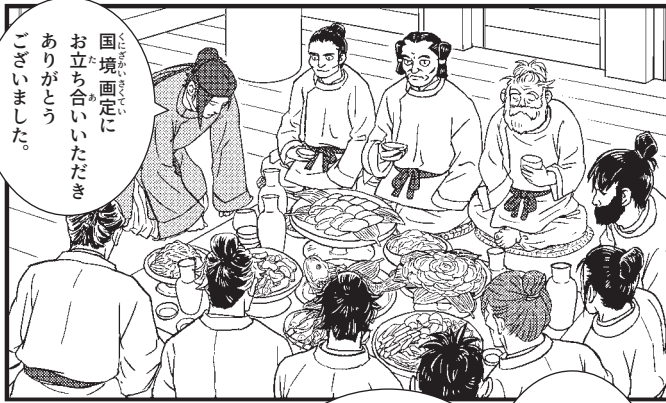


この2つの政策から  
下毛野氏が政府に協力して、  
官立の寺院を建設するよう  
命令が下された。

この命を下毛野に  
伝えるため、  
古麻呂たちは  
下毛野に向かった。



さらに蝦夷に対する政策のため、  
下毛野に拠点を置くことが決まった。



国境画定に  
お立ち合いいただき  
ありがとうございました。  
ございました。



下毛野の屋敷



那須殿や  
一族の皆様には  
なるべく不利に  
ならないよう  
報告をさせて  
いただきます。

交渉します  
のでお任せ  
ください。

うむ、  
止むをえまい…



おかげさまで、  
予定した期間内に  
画定が完了したことを  
報告できそうです。

特に那須殿には  
那須国併合にご同意  
いただき、ありがとうございます。  
ございます。



すまん、  
意斯麻呂よ。

ありがとうございます。  
ごさいます。



中央の言い分に  
逆らうわけ  
にはいきま。

まして、  
その仲介者が  
古麻呂ではな。

そなたと  
親父様の顔を  
つぶすわけには  
いかんだらう。



芳賀殿も足利殿も  
ご了解いただき  
ありがとうございます。



だがせめて、わしらが  
那須にいたことを  
未来永劫残るよう、

せがれや  
一族の者と話して  
「石に刻んで残そう」と  
決めたのじゃ。  
それくらいは許せよ。



中央はわしら  
東国などの地方の者が、  
力を持ち歯向かうのを  
恐れているのじゃらう。



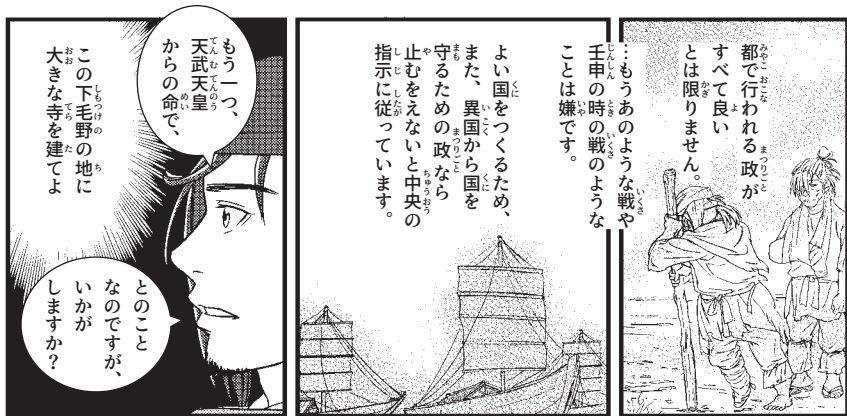
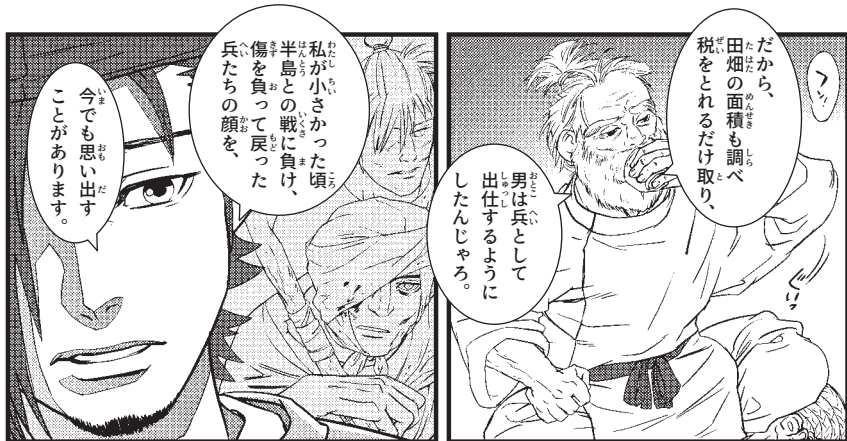
われらは  
常陸との境の時に  
色々見聞きした。

常陸は大化の時にも  
国造のクニが  
小さく分けられ  
多くの評が置かれた。

その時に、茨城や  
筑波の国造の領地は  
特に強引に小さく  
分けられてしまった。

聞いてて  
気の毒  
じゃったわ。







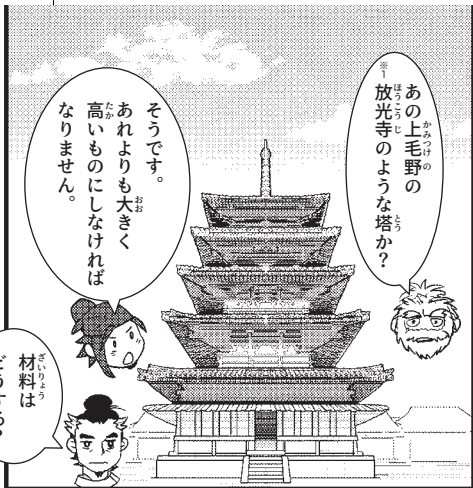
※一占師のこと



※2 小山市にある長さ約125mの前方後円墳



※1 現在の群馬県前橋市にあった寺（山王鹿寺）



あの上毛野の放光寺のような塔か？

そうです。あれよりも大きく高いものにしなればなりません。

材料はどうする？



木材は日光から。鉄は黒川・姿川、赤麻の池の砂鉄で作り、銅は足尾から提供してもらいます。石は大谷から運びます。

※2 現在の栃木市藤岡町にあった ※3 現在の日光市足尾地区

※5 宇都宮市の水追山瓦窯跡群のこと



瓦はわが領地の河内です。

工人は知り合いに頼み、近江の寺と同じ軒先の紋様とします。

大匠はどうする？

朝廷が手配するとも言っているのですが、



近江にいた時に知り合いになった美濃の大匠が力を貸すと言ってくれました。

仏像も作れるのか？

※4 現在の宇都宮市大谷地区 ※6 工事の総監修（六一）



近江の寺で仏像を作っていた者が、

山背の太秦が本貫地の渡来系の秦一族に協力してもらいます。

なんだ、ほとんど話がついているんじゃないか。



そうなのですが、他の長たちにも協力してもらわないとできないのです。

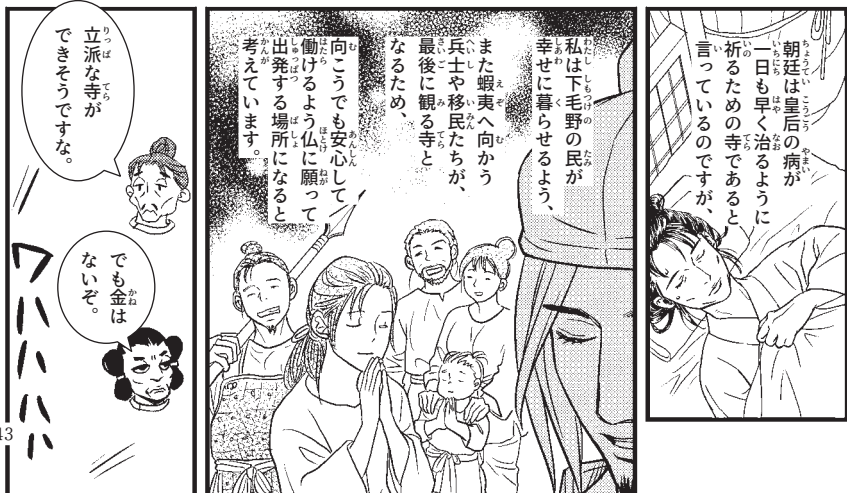
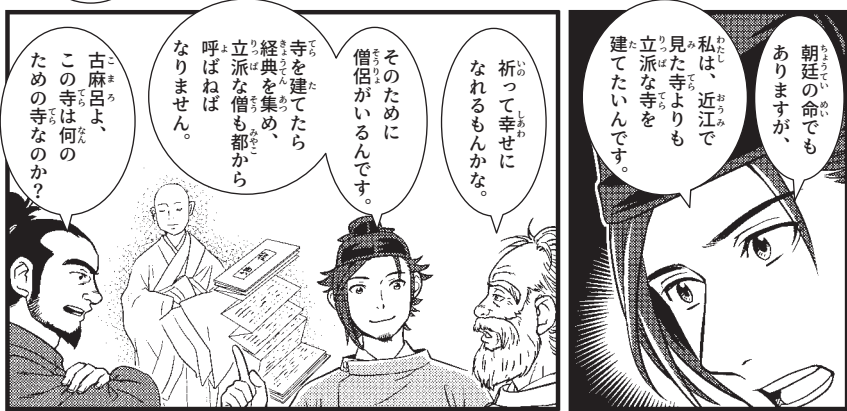
朝廷は、三関（不破・鈴鹿・愛発）や、富士の山から東の寺の中で一番立派な寺にせよと。

朝廷の命令では断れなからう。

※7 不破は東山道、鈴鹿は東海道（現在の三重県亀山市付近）、愛発は北陸道（現在の福井県敦賀市）のこと

※8 694年の八色の姓で下毛野氏が朝臣となつたことが背景である







- ※2 朝鮮半島から渡ってきた一族で、後に大宝律令編さん者の1人となった
- ※3 儒学（古代中国の思想など）を教えた博士（深い知識をもった人）
- ※4 画家の家系で、奈良県高松塚古墳の壁画を描いた人物と考えられている

681年から開始され、  
持統3年（689）年に  
完成し施行された  
飛鳥浄御原令は、

唐や新羅の法令を  
翻訳して完成させた  
ものであった。

その翻訳を  
担当したのが  
古麻呂や  
遣唐大使として  
渡航歴のある  
伊吉博徳、  
河内鯨、黄色本実  
などであり、

古麻呂は  
彼らから半島情勢を伺い、  
この国の現状を聞いて驚き、  
半島の文化などに  
さらに興味をもった。

※1 守るべき決まり事を文章にして全22巻にまとめたもの

浄御原令の完成で  
官僚制度、班田收授の法  
の整備が整えられ、  
その制定に関わった  
古麻呂らは特別に  
報酬をもらった。

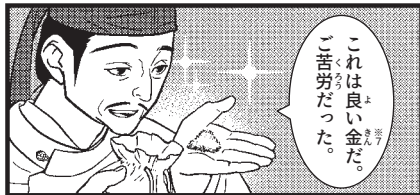
688年、  
天武天皇が  
亡くなった後、  
持統天皇が建立を  
引き継いでいた  
本薬師寺の金堂が完成

古麻呂は本尊の  
薬師如来のための  
鍍金用の金を  
那須意斯麻呂  
から預かり  
飛鳥へ戻った。

こちらの  
金は…

※ 戸籍にもとづいて、6歳以上の男子に口分田を与え、死亡後は返さずたくみ

※6 金属・非金属の材料の表面に薄い膜でおおうこと



これは良い金だ。  
ご苦労だった。



なんじゃ、  
申してみろ。

折り入って  
お願いが  
あります。



下毛野の地に  
那須という  
国があります。

そこに暮らす渡来系の  
那須意斯麻呂一族が、  
新しくつくる薬師如来  
さまのためにお使い  
いただければと  
上納したものです。

その地で  
産出した  
金です。



何卒、  
那須国も  
独立した国と  
お認め戴き、

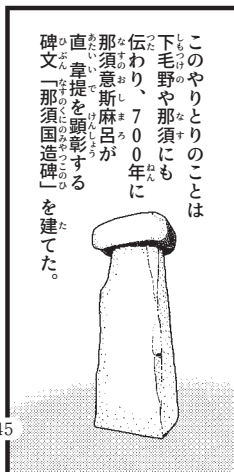
那須一族にも  
朝臣の称号を  
お与えいただければ  
とお願ひ申しあげます。



先般の八色の姓制定に伴い  
われわれ下毛野一族は  
朝臣として姓を  
いただきましたが、

評督を務めた那須一族は  
朝臣にしていただけ  
ませんでした。

この度のような働きが  
できたのは、これまで  
国造を務めた直章提が  
那須国をしっかり  
治めていたからです。



このやりとりのことは  
下毛野や那須にも  
伝わり、700年に  
那須意斯麻呂が  
直章提を顕彰する  
碑文「那須国造碑」を建てた。



せっかく、下毛野国を  
そなたの下毛野一族に  
任せると言っている  
のに、それでいいのか？

いえ、那須国の  
蝦夷地に対する  
これまでの働き  
などを考えて評価  
していただければ  
とお願ひです。

古麻呂、  
そのあたりで  
止めるがよい。  
一度決まった  
ものは覆らん。

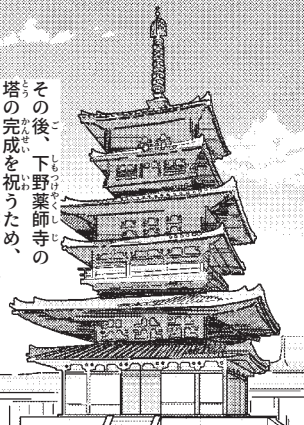




古麻呂よ。

朝廷にわれらのことを願い出てくれたと親父様から聞いたぞ。

その後、下野薬師寺の塔の完成を祝うため、古麻呂たちは下毛野に戻った。上毛野、常陸、磐城などの隣国の使者、那須や下毛野国内の豪族たちと宴会を催した。



これまで各地を治めてきた地方の豪族を軽く見過ぎていると思います。

言うべきことは言った方がよいかと。

時の流れが早すぎてやむをえないのかもしれないが、朝廷はわれらだけでなく、西も東にも



叶わぬことで申し訳ございません。

下毛野の豪族の皆もそう思っているぞ。

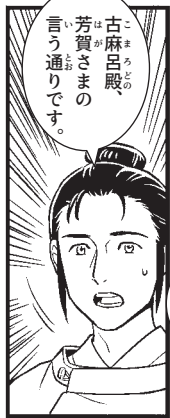
いやいや、その気持ちだけでもありがたい。



われら上毛野一族も以前は東国随一の力を持つ一族と帝や都の者たちから一目置かれましたが、榛名のお山の噴火の被害にあぐ中での唐・新羅との戦以降

今では朝廷にモノを言える人材もおりません。

朝廷、特に中臣鎌足の策略で財も人も取られ！



古麻呂殿、芳賀さまの言う通りです。



世の流れは都の連中が決めている。

逆らうと痛い目にあうぞ。

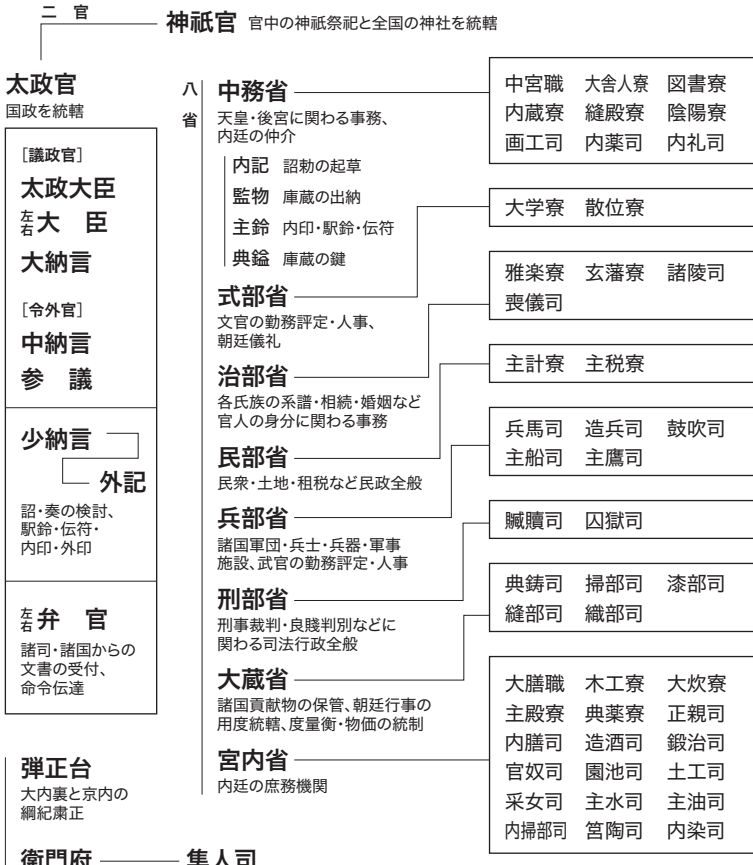
でも気をつけろよ。

※群馬県高崎市にある標高144.9mの山



(参考) 律令によって定められた官制

中央官制



**衛門府** **隼人司**  
宮城門・宮門の警備 朝廷に奉仕する隼人の管理

左**衛士府** 衛士の管理、宮門・宮城門・  
宮内諸官衛の警備

左**兵衛府** 兵衛(天皇の親衛隊)の管理、  
閤門(内門)の警備、天皇の  
身辺護衛、行幸供奉

左**馬寮** 官馬の調教・飼養

左**兵庫** 儀式・実用の武器管理

**内兵庫** 供御用の武器管理

地方官制

京**左京職** **右京市司**  
京内の行政・警察機構 市の管理・運営

**摂津職**

難波宮・難波津・難波市の管理、  
摂津国の国司を兼務

**大宰府** **防人司**

西海道諸国を管轄、防人・軍事  
施設の統轄、外交交渉

**諸国・嶋** **郡司**

**軍団**

(『東の飛鳥』より)



第3章  
みんなの  
ために

天武天皇の菩提を弔う  
本薬師寺の完成を祝うため  
飛鳥に戻った古麻呂は、

奴婢開放の褒美をもらい、  
飛鳥浄御原令策定の働きもあり、  
さらに官位として認められ  
出世した。



※679年に九州で大地震が起き、684年には四国から東海地方にかけて巨大地震が発生したためともいわれている



いえいえ、この書類を写していて、

大宰府に行ったときのことを思い出していただきます。

また遅くまで書を読んでいたのですか？



その書面は大宰府からの物資の要求書ですね。

朱鳥元(686)年4月13日、新羅の外交使節団が筑紫に到着。しかし、天武8(679)年から持統5(691)年まで外交使節団の入京停止策により使節団は筑紫に留まっていて、古麻呂は通訳として筑紫へ派遣されていた。

今、大宰府には異国の船がかなり来ていると聞きました。



私はまた、大宰府に行きたい！

見たこともない異国のものや、あちこちの国から来た、様々な言葉の人々から話を聞くのは楽しかった！



そうですか

商人の船が多数行き来しているようですが、

時折、海賊の被害が出ています。